

グラフで見る関西経済 (2020年8月)

2020年8月28日

調査部 主任研究員 塚田 裕昭

今月の景気判断 ~新型コロナウイルス感染症の影響で厳しい状況にあるが、一部に持ち直しの動きがみられる

【今月のポイント】

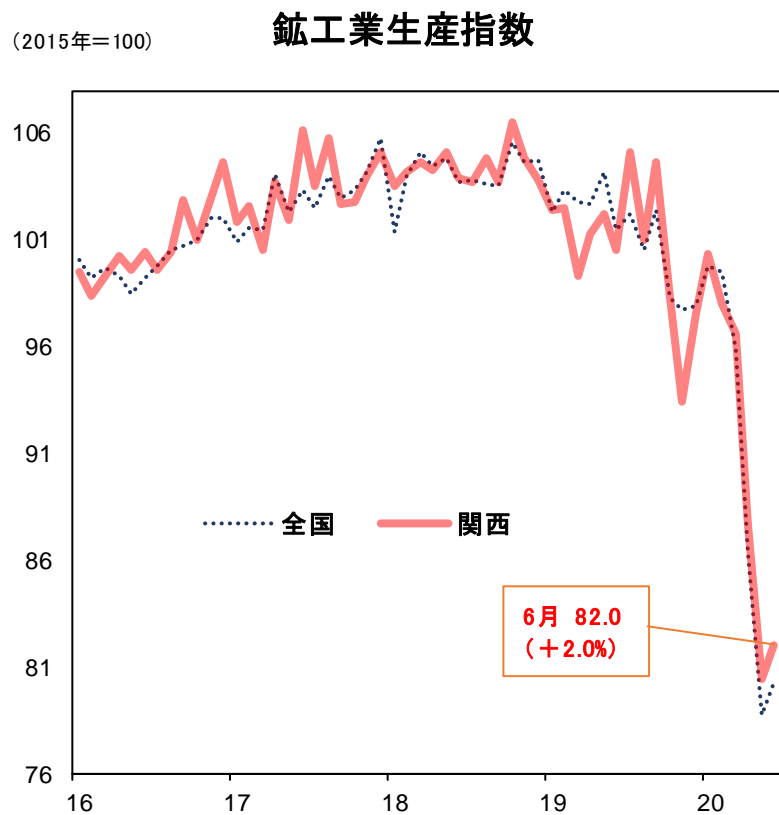
- 新型コロナウイルス感染症の影響で、足下の指標は総じて厳しい水準にあるが、一部に持ち直しの動きがみられる。
- 生産は電気機械など主要業種が増加し、鉱工業全体でも5ヶ月ぶりに増加に転じた。
- 輸出は名目前年比では減少が続くが、季節性を調整した実質前月比では2ヶ月連増で増加。
- 個人消費関連指標は、小売販売の減少が続くが減少幅は縮小。下げ止まりの動きがみられるものの、インバウンド蒸発の影響で全国にくらべ弱い動き。

項目	現状
景気全般	新型コロナウイルス感染症の影響で厳しい状況にあるが、一部に持ち直しの動きがみられる(↑)
生産	持ち直しの動きがみられる(↑)
輸出	持ち直しの動きがみられる(↑)
設備投資	増加基調
雇用	弱い動きとなっている
賃金	弱い動きとなっている
個人消費	下げ止まりの動きがみられる
住宅投資	弱含んでいる
公共投資	横ばい圏で推移している(↓)

(注)景気全般は、持ち直しの動きが広がってきたことから上方修正

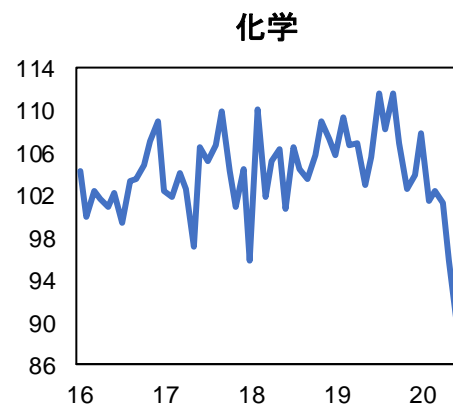
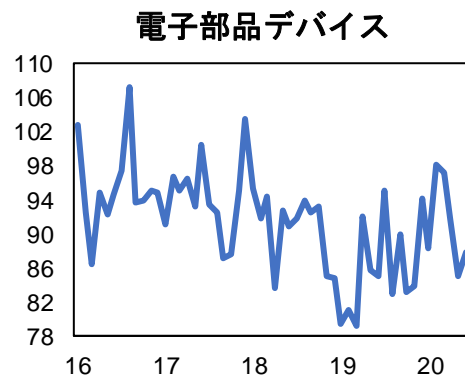
生産

6月の鉱工業生産は前月比+2.0%と5ヶ月ぶりに増加した。電子部品デバイス、汎用・生産用・業務用機械、電気機械などが増加した。前年比では-15.8%減。先行きについては持ち直しが見込まれる。



(出所) 経済産業省、近畿経済産業局

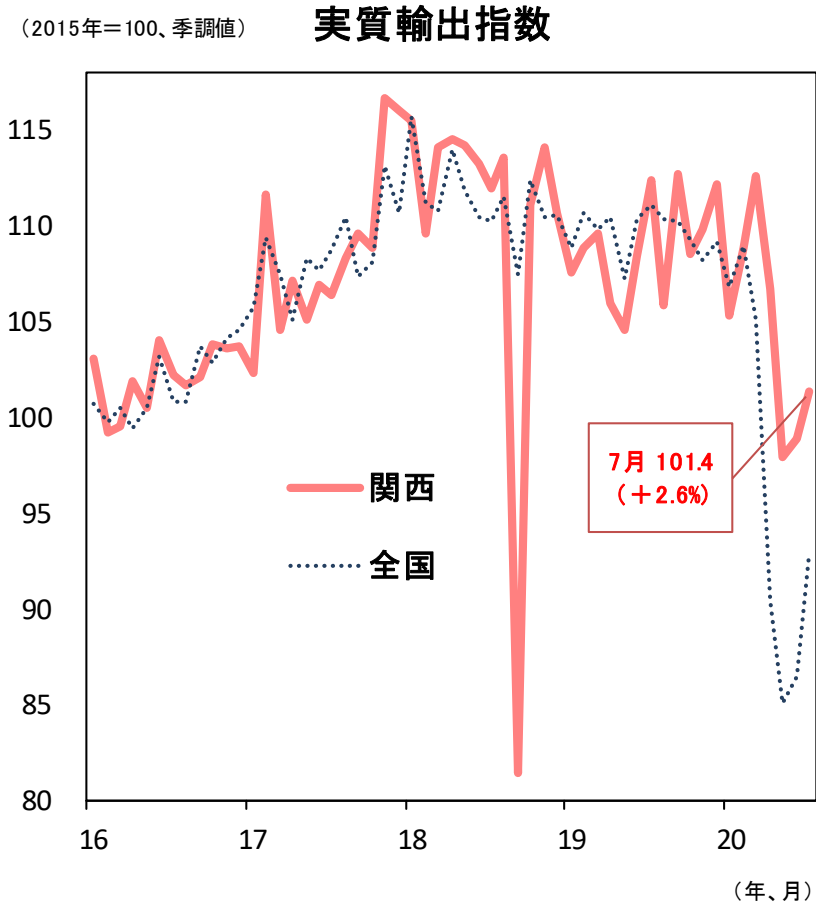
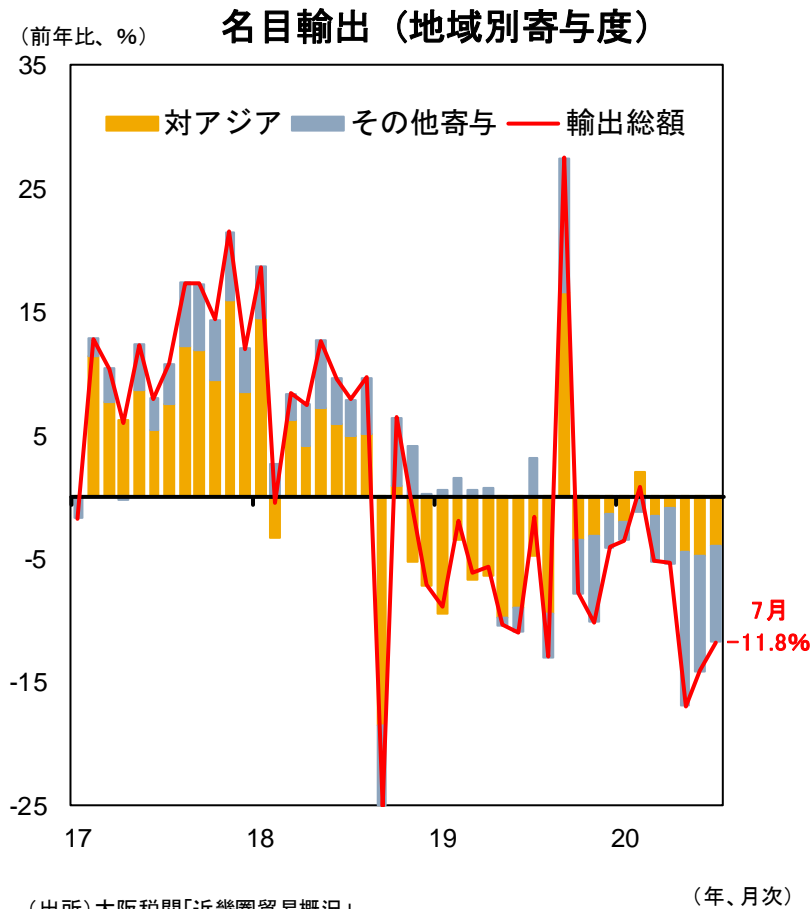
(年、月)



輸出

7月の名目輸出額は前年比-11.8%と5ヶ月連続で減少した。半導体製造装置、遊戯器具が増加したが鉱物性燃料、鉄鋼などが減少した。引き続き、全国(同-19.2%)に比べ落ち込みは小幅となった。

7月の実質輸出指数(季節調整値)は前月比+2.6%と2ヶ月連続で上昇した。



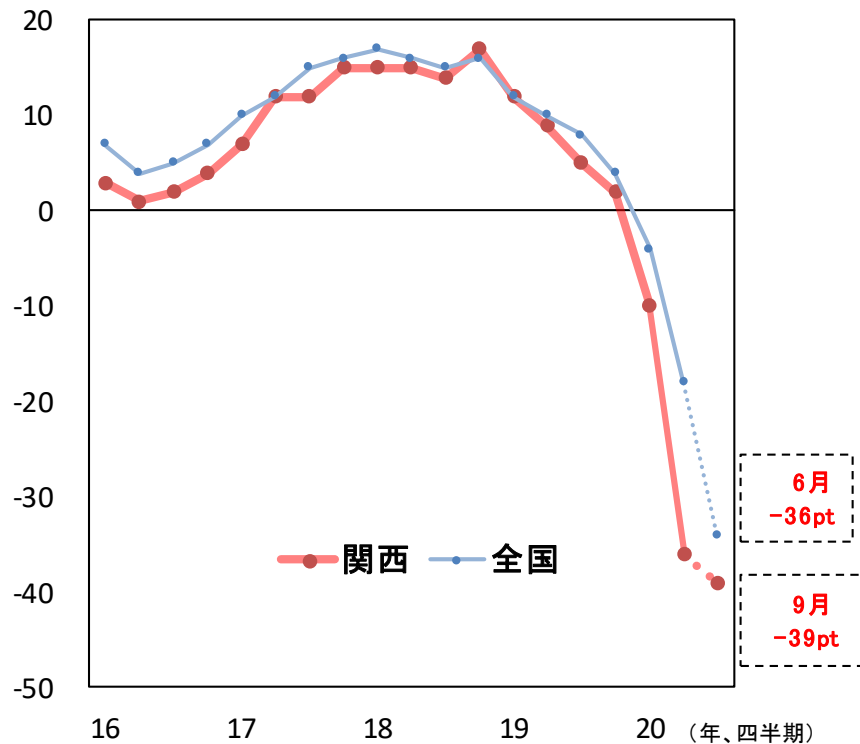
(出所)大阪税関「近畿圏貿易概況」

(出所)日銀大阪支店「実質輸出入」

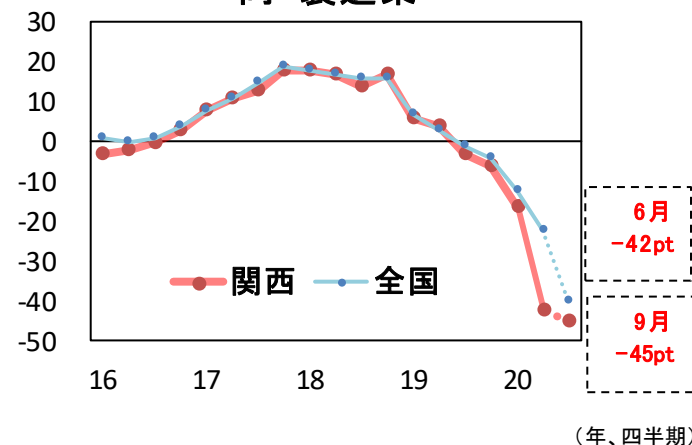
企業景況感(日銀短観) ※以下は7/1公表の6月調査。9月調査は10/1公表予定

日銀短観6月の業況判断DIは全産業で-36ptと3月から大幅に悪化。製造業は-42pt、非製造業は-31pt。先行き(9月)についても、全産業、製造業、非製造業、いずれも悪化が見込まれている。

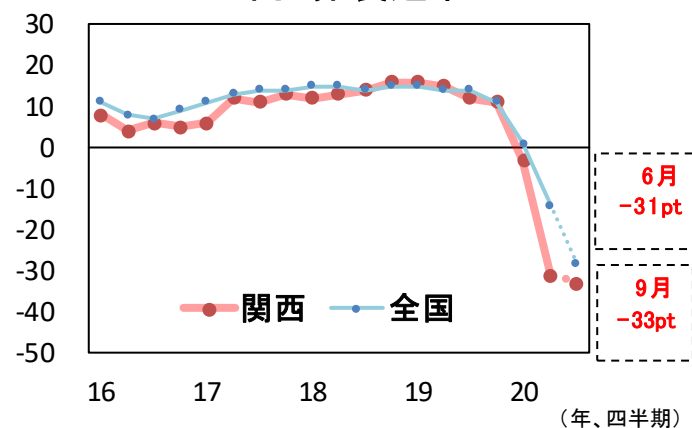
短観 業況判断DI「全産業」



同 製造業

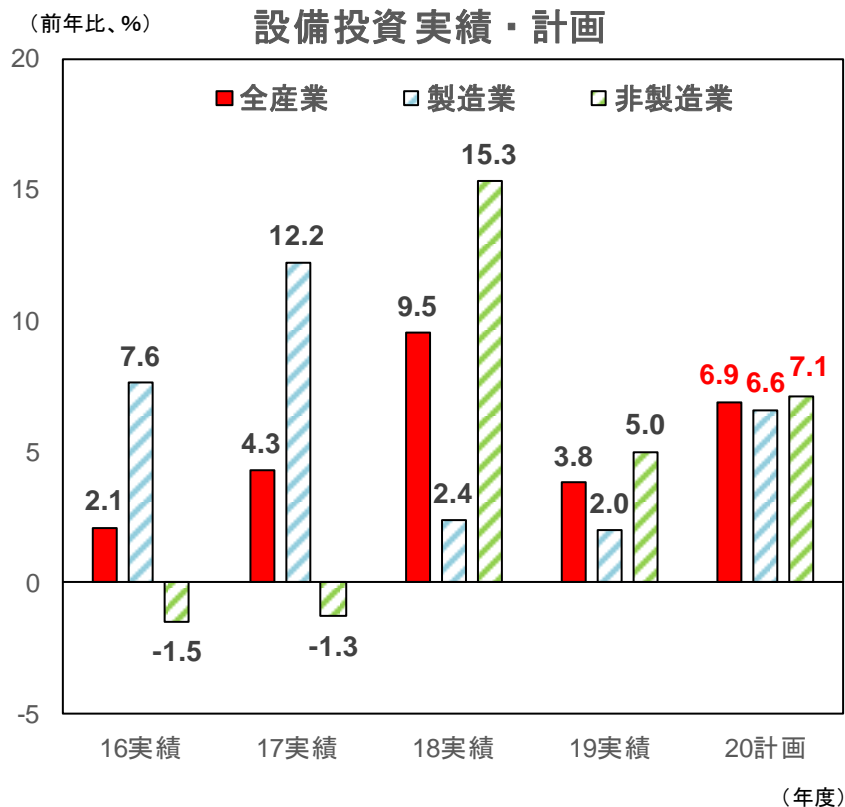


同 非製造業



設備投資 ※以下は7/1公表の6月調査。9月調査は10/1公表予定

日銀短観6月調査によると、19年度の設備投資(実績)は前年比3.8%の増加、非製造業の伸びが製造業を上回った。20年度は全産業、製造、非製造いずれも前年比増加を見込み、3月調査時から小幅上方修正された。



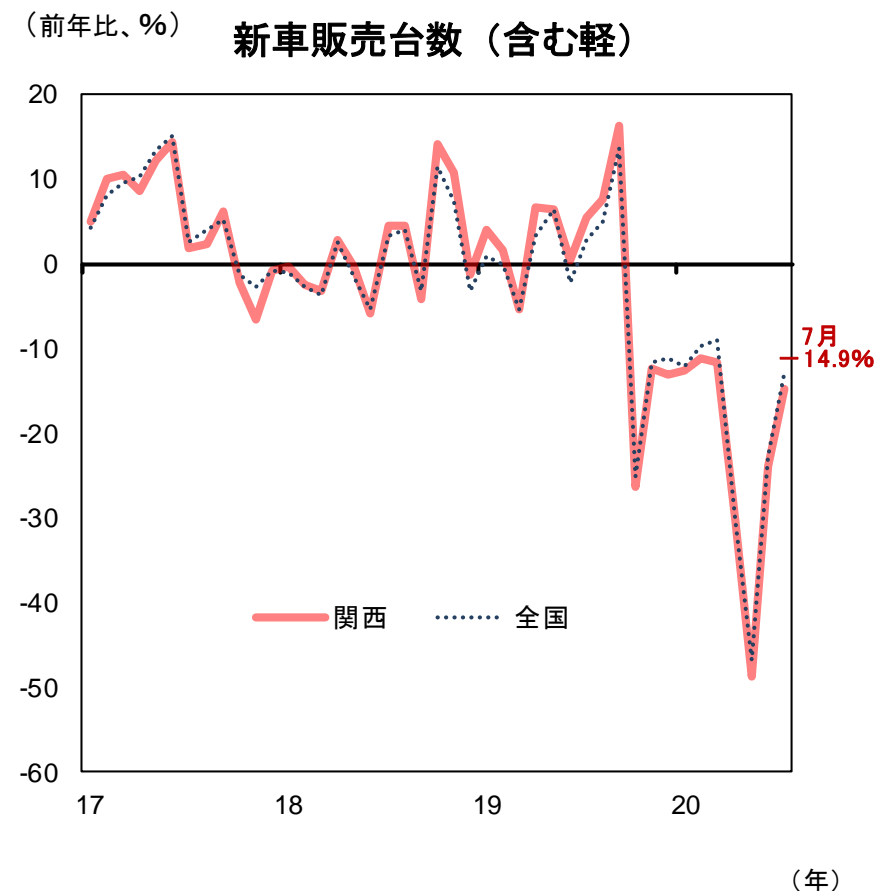
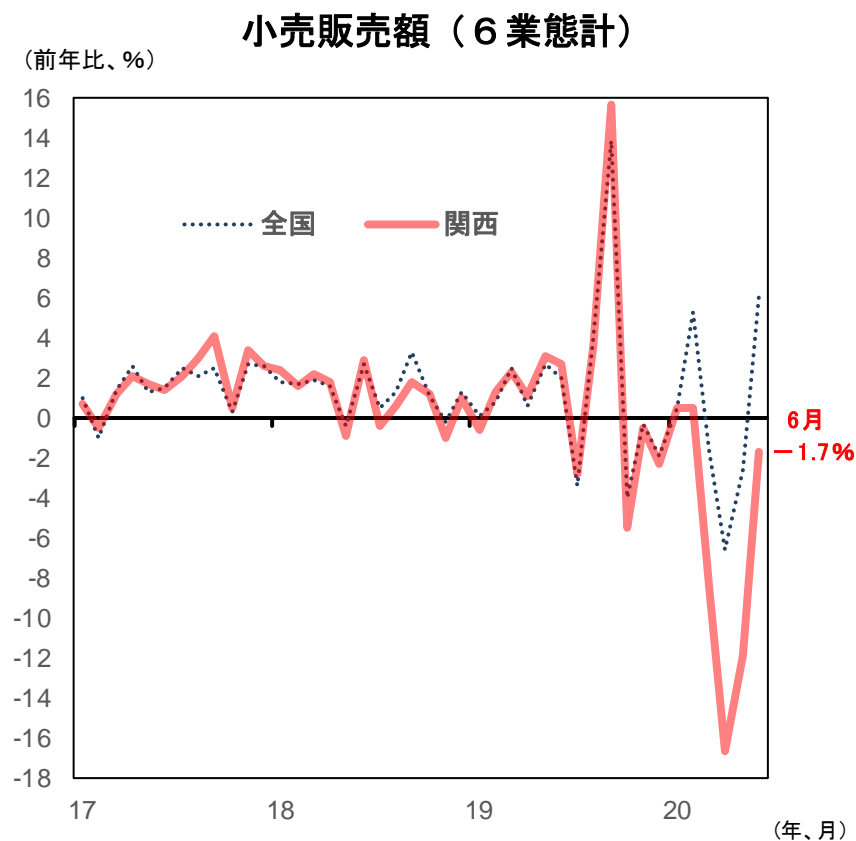
設備投資額(前年比%)

	19年度 実績	20年度 計画	
		今回	3月調査時 [差異]
全産業	3.8	6.9	5.2 1.7
製造業	2.0	6.6	5.9 0.7
非製造業	5.0	7.1	4.7 2.4

個人消費(小売売上、自動車販売)

6月の小売販売額は、前年比-1.7%と4ヶ月連続で減少、減少幅はかなり縮小したが全国と比べて弱い動きとなっている。インバウンド蒸発の影響が大きい。

7月の新車販売は前年比-14.9%と大幅減が続いているが、減少幅は縮小した。

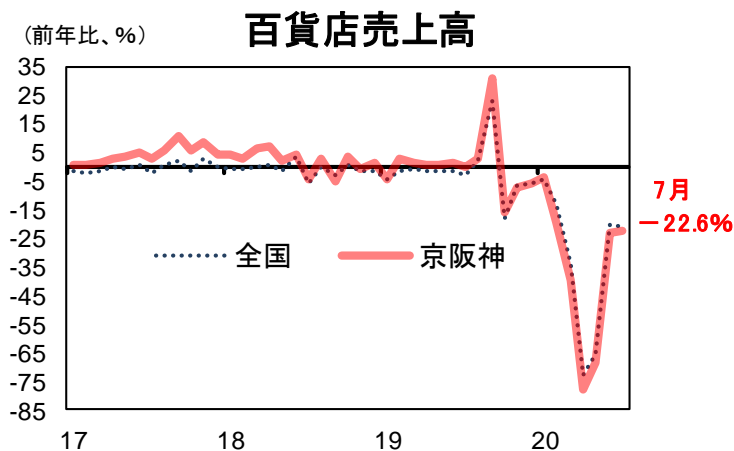


(出所) 商業販売動態統計
 (注) 百貨店、スーパー、コンビニ、ドラッグストア、家電量販店、ホームセンターの合計

(出所) 日本自動車販売協会連合会、全国軽自動車協会連合会

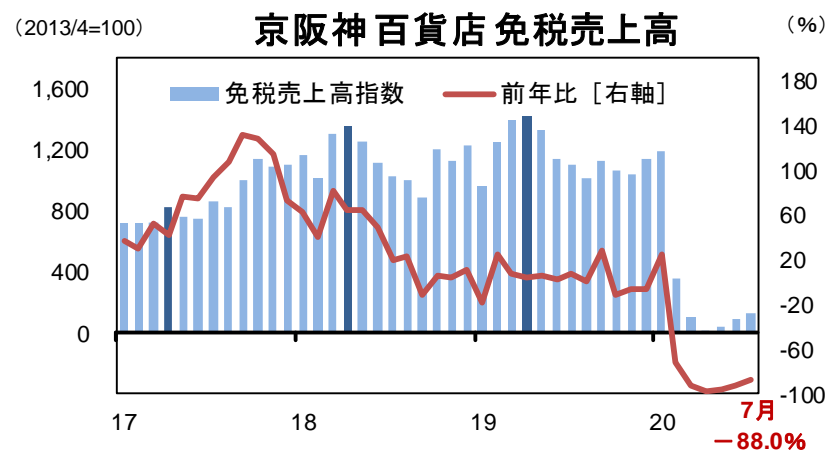
個人消費(業態別)

7月の百貨店売上は、インバウンド蒸発の影響で前年比-22.6%と大幅減が続いている。うち免税売上は入国制限もあって同-88.0%とほぼ消失した。家電売上は大幅増。定額給付金交付が影響した模様。

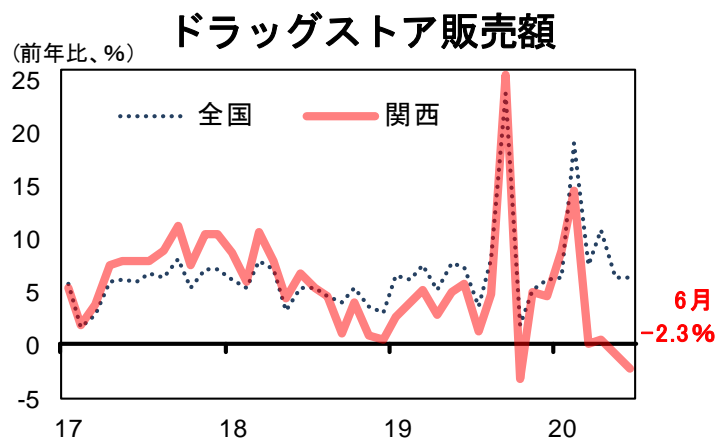


(出所) 日本百貨店協会

(年、月)

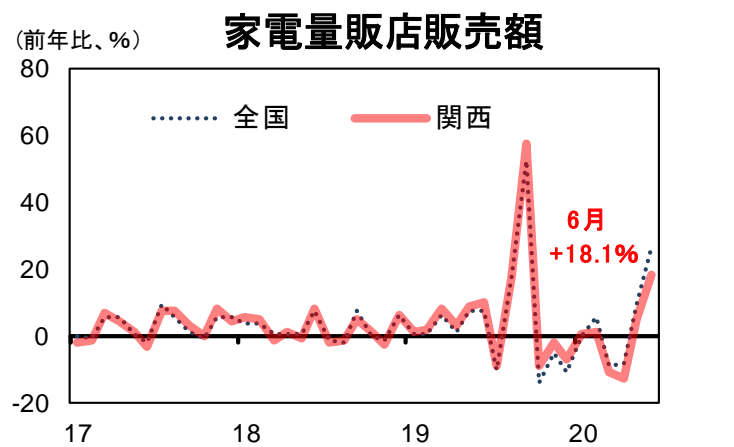


(出所) 日銀大阪支店「百貨店免税売上(関西地域)」



(出所) 商業販売動態統計

(年、月)

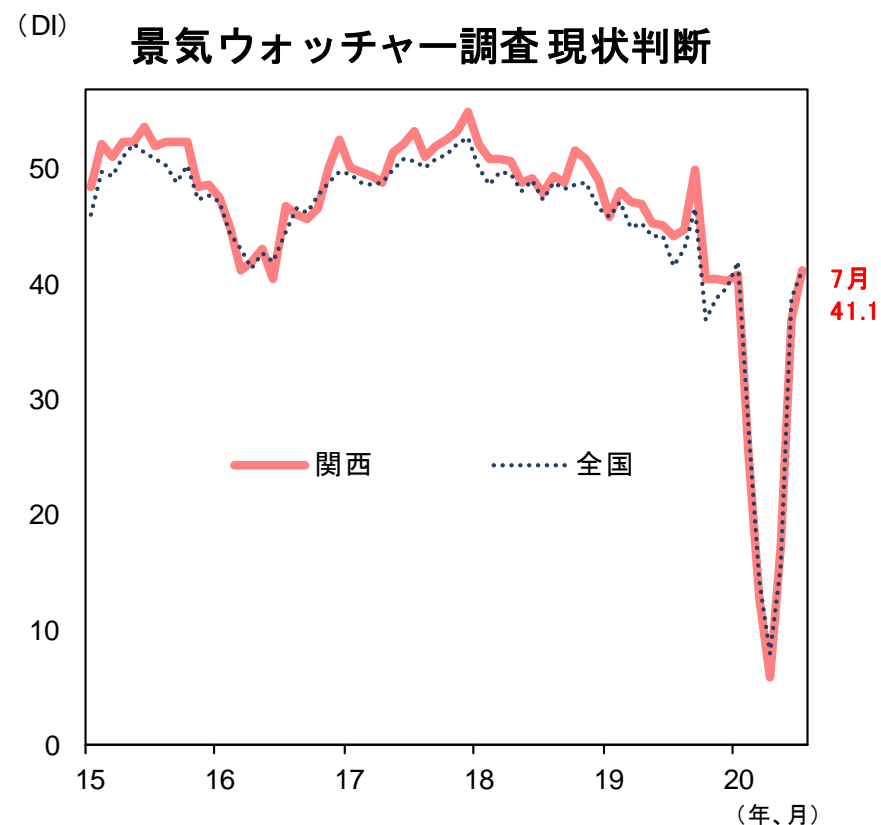
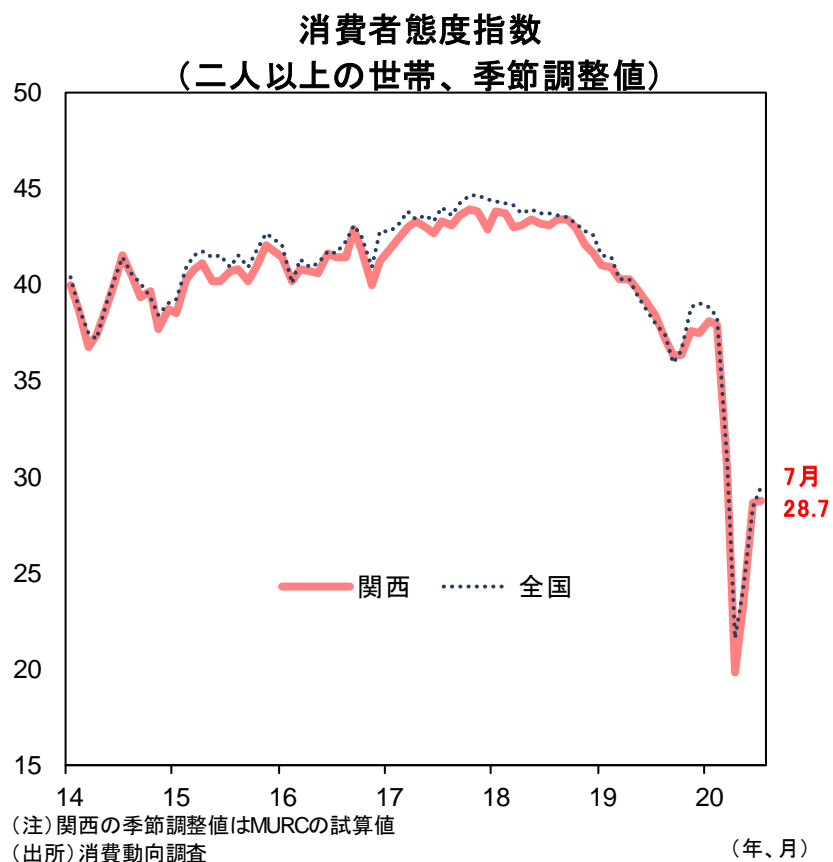


(出所) 商業販売動態統計

(年、月)

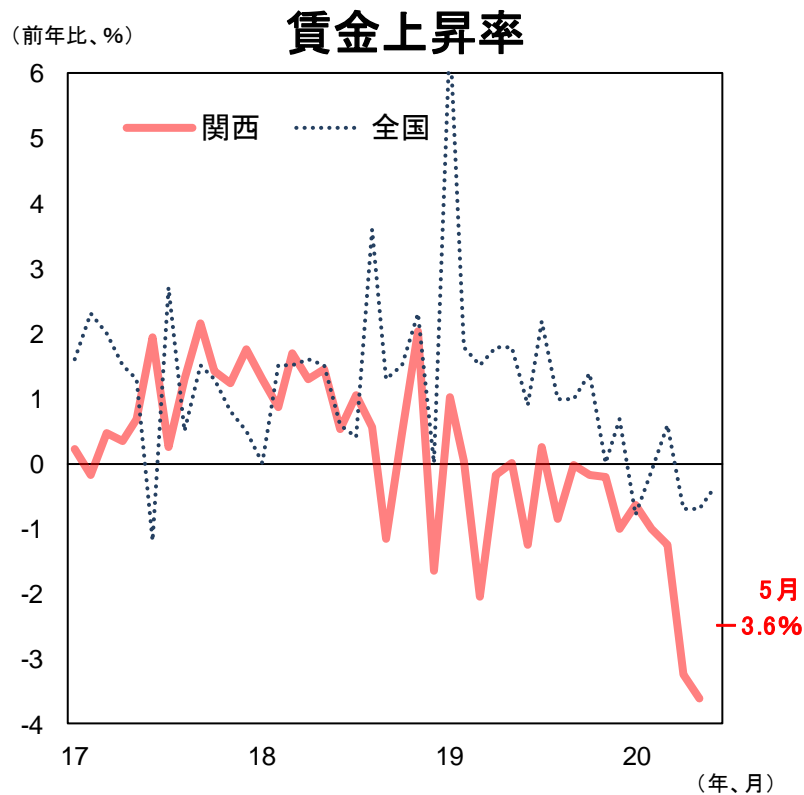
マインド・景況感

7月の消費者態度指数(季節調整値)は28.7と前月(28.6)とほぼ同水準となった。景気ウォッチャー調査の現状判断DI(季節調整値)も41.1と前月より上昇したが、改善ペースは鈍化した。先行き判断については、コロナウイルス感染再拡大の懸念から改善期待が低下している。

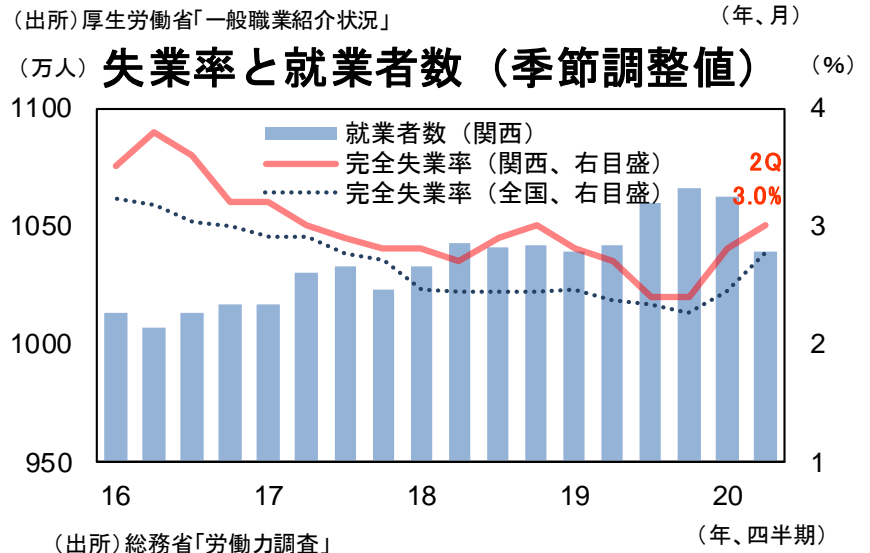
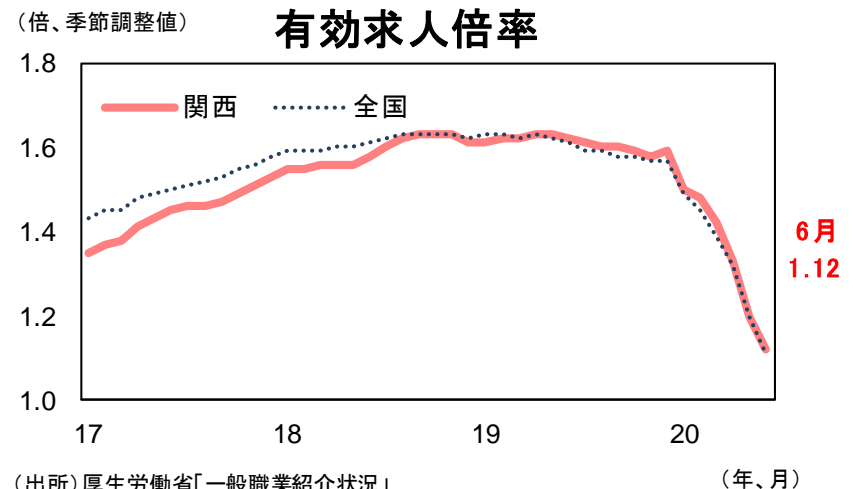


賃金・雇用

5月の名目賃金指数は、前年比-3.6%と10ヶ月連続で前年比減。賃金動向は弱い動きとなっている。
6月の有効求人倍率は6ヶ月連続で低下。新型コロナウイルス感染拡大の影響で求人数が減少し、求職者数が増加した。

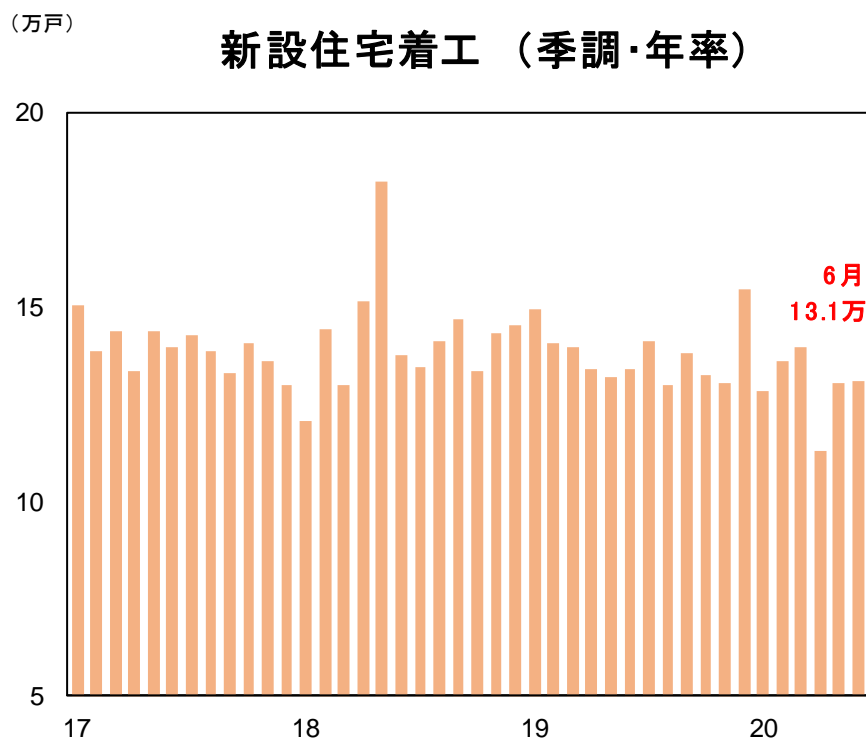


(注) 関西2府4県の名目賃金指数を常用労働者数で按分し合成したもの、MURC試算
(出所) 厚生労働省、各県「毎月勤労統計」



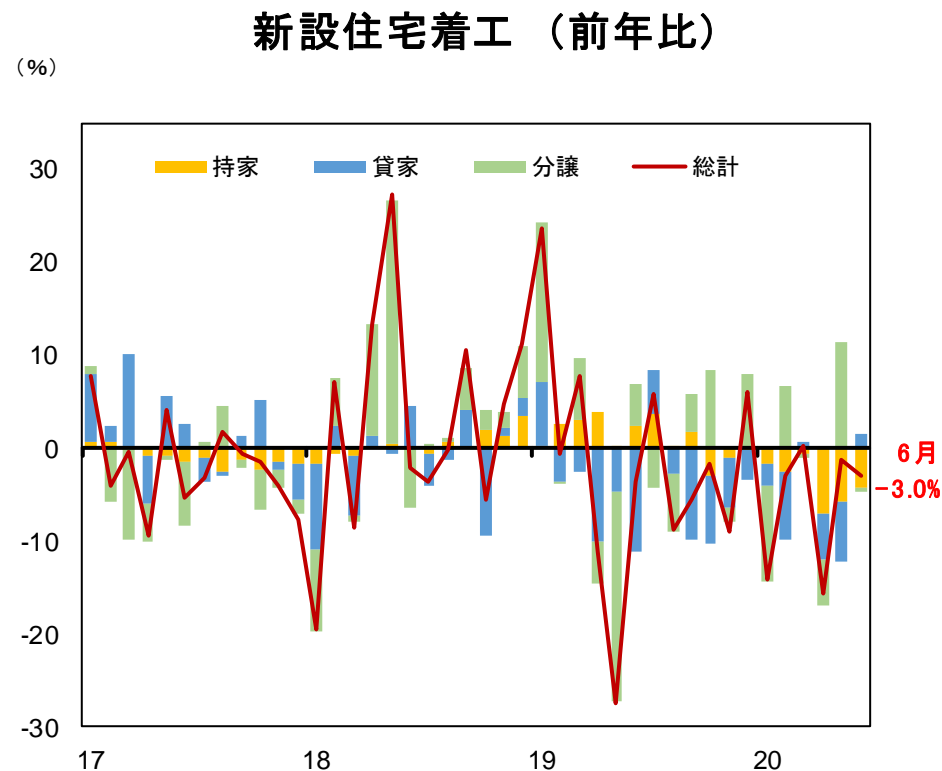
住宅投資

6月の住宅着工は季調・年率で13.1万戸、原数値の前年比では-3.0%となり、総じて弱い動きが見られる。貸家が増加したが、持家、分譲が減少した。



(出所) 建築着工統計

(年、月)

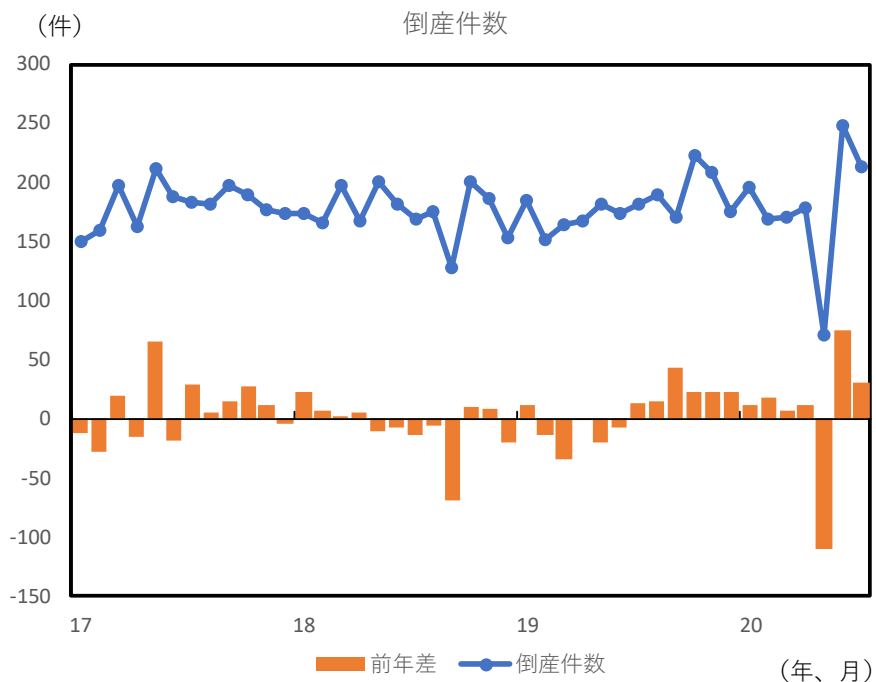


(出所) 建築着工統計

(年、月)

倒産

倒産件数は、5月の大幅減の後、2ヶ月連続で前年より増加。



(出所) 東京商工リサーチ「全国企業倒産状況」

公共投資

公共投資は横ばい圏で推移している。



(注) 季調値はMURC試算

(出所) 東日本建設業保証「公共工事前払金保証統計」

ご利用に際してのご留意事項を記載していますので、ご参照ください。

(お問い合わせ)調査部 TEL:03-6733-1070 E-mail:chosa-report@murc.jp

〒108-8501

東京都港区虎ノ門5-11-2 オランダヒルズ森タワー

— ご利用に際して —

- 本資料は、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一的な見解を示すものではありません
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所:三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡ください